

DXが生み出す新たなビジネス ～自社の課題解決から新たな価値創出へ～



Contents

- ・コマツ(株) 7頁
- ・(株)TW PLAN 8頁
- ・(株)Hachidai Lab. 9頁

環境変化に取り残されないための
真のDXとは何か？

デジタル技術の急速な進展や、市場ニーズの多様化、そして深刻な人手不足など、中小企業を取り巻く環境はかつてないスピードで変化している。もはや従来の延長線上のビジネスモデルや、既存の商慣習に頼るだけでは、持続的な成長を描くことが困難な時代となっている。こうした状況を打破する鍵として「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が注目を集めるが、多くの中小企業において、DXは単なるペーパーレス化や一部の業務効率化（IT化）にとどまっているのが実態である。真のDXとは、デジタル技術を駆使して製品やサービス、ビジネスモデルそのものを変革し、市場における新たな競争優位性を確立することにあるのではない。

自社の課題解決から生まれる
「新ビジネス展開」

今、注目を集めているのは自社が抱える課題を解決するためにデジタル技術を導入し、そこで得たノウハ

ウや開発したシステムを「新たな収益源や事業」へと繋げている企業である。最初からITビジネスを立ち上げようとしたわけではなく、現場の泥臭い課題を解決するためにDXを活用した点にこれらの企業の強みがある。自社のリアルな課題から生まれた仕組みだからこそ、同じ悩みを持つ他社や同業者にとっても圧倒的な説得力と実用性を持ち、「伴走支援」「アプリの収益化」「システム外販」といった新たなビジネスに直結している。これは資金や人材に制約のある中小企業にとって、現実的かつ強力な経営戦略となり得る。

東大阪から発信する「現場発のDX」

本特集では、自社の課題をDXで解決し、新たなビジネスへ展開する東大阪の3社を紹介する。壁紙AI識別アプリで収益化を図るコマツ(株)、内装工事一元管理アプリを外販する

この続きは会員事業所
のみご覧いただけます